

アワニー原則におけるコミュニティの原則
(Community Principles of The Ahwahnee Principles)

すべてのコミュニティは、住宅、商店、勤務先、学校、公園、公共施設など、住民の生活に不可欠なさまざまな施設・活動拠点をあわせ持つような、多機能で、統一感のあるものとして設計されなければならない。

できるだけ多くの施設が、相互に気軽に歩いて行ける範囲内に位置するように設計されなければならない。

できるだけ多くの施設や活動拠点が、公共交通機関の駅・停留所に簡単に歩いて行ける距離内に整備されるべきである。

さまざまな経済レベルの人びとや、さまざまな年齢の人びとが、同じ一つのコミュニティ内に住むことができるように、コミュニティ内ではさまざまなタイプの住宅が供給されるべきである。

コミュニティ内に住んでいる人びとが喜んで働けるような仕事の間が、コミュニティ内で産み出されるべきである。

新たにつくりだされるコミュニティの場所や性格は、そのコミュニティを包含する、より大きな交通ネットワークと調和のとれたものでなければならない。

コミュニティは、商業活動、市民サービス、文化活動、レクリエーション活動などが集中的になされる中心地を保持しなければならない。

コミュニティは、広場、緑地帯、公園など用途の特定化された、誰もが利用できる、かなりの面積のオープンスペースを保持しなければならない。場所とデザインに工夫を凝らすことによって、オープンスペースの利用は促進される。

パブリックなスペースは、日夜いつでも人びとが興味を持って行きたがるような場所となるように設計されるべきである。

それぞれのコミュニティや、いくつかのコミュニティがまとまったより大きな地域は、農業のグリーンベルト、野生生物の生息境界などによって明確な境界を保持しなければならない。またこの境界は、開発行為の対象とならないようにしなければならない。

通り、歩行者用通路、自転車用道路などのコミュニティ内のさまざまな道路は、全体として、緊密なネットワークを保持し、かつ、興味をそそられるようなルートを提供するような道路システムを形成するものでなければならない。それらの道は、建物、木々、街灯など周囲の環境に工夫を凝らし、また、自動車利用を減退させるような小さく細いものであることによって、徒歩や、自転車の利用が促進されるようなものでなければならない。

コミュニティの建設前から敷地内に存在していた、天然の地形、排水、植生などは、コミュニティ内の公園やグリーンベルトのなかをはじめとして、可能な限り元の自然のままの形でコミュニティ内に保存されるべきである。

すべてのコミュニティは、資源を節約し、廃棄物が最小になるように設計されるべきである。

自然排水の利用、干ばつに強い地勢の造形、水のリサイクリングの実施などをおして、すべてのコミュニティは水の効果的な利用を追及しなければならない。

エネルギー節約型のコミュニティをつくりだすために、通りの方向性、建物の配置、日陰の活用などに十分工夫を凝らすべきである。

注：各種資料により(株)エックス都市研究所作成